

【展覧会】「細見コレクションー琳派と若冲ー」展を開催

細見美術館では、2020年9月12日(土)から12月20日(日)まで、「細見コレクションー琳派と若冲ー」を開催いたします。

日本美術史のほとんどすべての時代・分野を網羅する作品で構成される細見コレクション。中でも、趣を異にしながら圧倒的な人気を誇る「琳派」と「若冲」の作品は、見る者にときめきと驚きを与えてくれます。

本展では、選りすぐりの琳派と伊藤若冲の作品を展示。あわせて豊かな表現力を持つ桃山陶芸 志野と織部を紹介します。コレクターに愛された作品と対峙し、そのエネルギーを感じ取っていただければ幸いです。

<細見コレクションのあゆみ>

大正～昭和前期に大阪を基盤に活躍した実業家、細見良^{りょう}(初代古香庵 1901-1979)。彼に始まる幅広い年代と分野で構成されています。

初代古香庵は、平安・鎌倉時代の仏教・神道美術に傾倒、また茶の湯釜^{ねごろ}、根来、水墨画、絵巻などの蒐集を精力的に行いました。一方、嫡子^{みのる} 實(2代古香庵 1922-2006)は、特に桃山・江戸時代の絵画を好んで集めました。昭和40年代、50年代には一般にあまり知られていなかった伊藤若冲や江戸琳派の作品に注目し、研究と蒐集に情熱を注ぎました。その他、葛飾北斎など江戸絵画の多彩さを物語るさまざまな作品を収め、父に続き多層的なコレクションを形成しました。

■主な出品作品

琳派



(裏)

酒井抱一 鹿楓図団扇

江戸後期 紙本金地著色 1柄

金箔を貼った団扇の表裏に鹿と楓を描く。萩の茂る秋の野に立ち、振り向く牡鹿は、宗達の金銀泥絵などに見られる鹿の姿に倣うもの。鹿の鼻先や尾の繊細な表現が目を引く。

一方の楓は、たらし込みを用いて幹の微妙な色合いを表わし、葉は明快かつ丁寧に描いている。表裏とも琳派様式を強く意識した作品となる。



本阿弥光悦/書 俵屋宗達/下絵
忍草下絵和歌巻断簡 江戸初期



鈴木守一 業平東下り図 江戸後期〜明治期 ※前期展示



神坂雪佳 金魚玉図 明治期 ※前期展示



酒井抱一 鹿楓図団扇(表) 江戸後期



池田孤邨 四季草花流水図屏風 江戸後期

若 冲



伊藤若冲 花鳥図押絵貼屏風

江戸中期 紙本墨画 6曲1双

右隻・左隻とも若冲の得意とする鶏を二図、画面の中央に配置し、右隻には梅、牡丹に蝶、立葵に小禽、沢瀉に小禽、左隻には木槿に翡翠、菊に蜻蛉、鴛鴦、柳に烏を配している。

勢いに富む濃墨の線描、淡墨の滲みを活かした面の連なりなど、若冲はさまざまな技法を試みている。こうした水墨の押絵貼屏風は需要があったらしく、本図はその比較的早い作例で、四十代の作といえよう。ユーモアに満ちた略画的な屏風は晩年、より力強い水墨表現へと結実する。



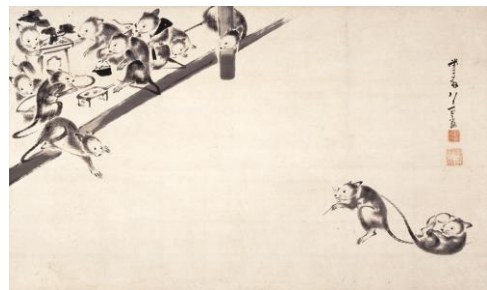
伊藤若冲 花鳥図押絵貼屏風 江戸中期



伊藤若冲 雪中雄鶏図 江戸中期 ※後期展示



伊藤若冲 糸瓜群虫図 江戸中期 ※前期展示



伊藤若冲 鼠婚礼図 寛政八年(一七九六)

桃山陶芸

志野唐花文鉢

桃山時代 施釉陶器 1口



桃山から江戸初期にかけて美濃窯で焼かれた志野は、日本で初めて作られた白いやきもの。鉄絵で文様を施すことで、やきものに絵画的表現をもたらした。

本作は懐石具として使用された。不思議な唐花模様が配され、縁の図柄の一つには蛇籠が描かれている。南蛮交易によってもたらされた異国の意匠に影響を受け、新たな図様を試みたものであろう。

織部千鳥文手付四方鉢

桃山時代 施釉陶器 1口



織部は17世紀初期に美濃窯で焼かれたやきもので、その独創性が高く評価された。

この器は、織部特有の緑釉が捻じった把手を通して対角線状に配され、たらし込みのような広がりを見せている。端に愛らしい千鳥が二羽描かれており、中央の曲線は山や波に見立てることもできよう。余白を活かした穏やかな表情を持つ。

■ 展覧会概要

展覧会名称	「細見コレクションー琳派と若冲ー」展
会期	2020年9月12日(土)～12月20日(日) 前期:9月12日(土)～10月25日(日) 後期:10月27日(火)～12月20日(日)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合、翌日) ※9月21・22日開館、9月23日休館。
入館料	一般1,300円 学生1,000円
主催	細見美術館 京都新聞
会場	細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 http://www.emuseum.or.jp TEL075-752-5555

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご入館および施設のご利用にあたってはマスクをご着用ください。また、急激な状況の変化により、止むを得ず開館・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

■ 画像資料希望 ご取材申込 など

- ・コロナウイルス感染対策のため、報道内覧会は開催いたしません。
- ・取材および会場撮影をご希望の場合は、ホームページリリースページより「資料(画像)申込フォーム」もしくは右記「QRコード」をご利用いただき、お申込みください。



■ お問い合わせ

細見美術館 TEL075-752-5555 FAX075-752-5955

広報担当: 三宅由紀 kouhou@emuseum.or.jp